

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	→ 3	3	百日咳	↓ 0	1
RSウイルス感染症	→ 0	0	ヘルパンギーナ	↓ 195	266
咽頭結膜熱	↗ 25	16	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	↗ 44	36
A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	↓ 53	56	急性出血性結膜炎	↗ 1	0
感染性胃腸炎	↓ 204	242	流行性角結膜炎 (はやり目)	↓ 18	20
水痘	↓ 18	36	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↓ 13	22	無菌性髄膜炎	↗ 1	0
伝染性紅斑 (りんご病)	↓ 2	3	マイコプラズマ肺炎	↗ 4	3
突発性発しん	↓ 42	43	クラミジア肺炎	↗ 2	0

**報告が多い感染症**

- 感染性胃腸炎
- ヘルパンギーナ
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

- 感染性胃腸炎は、報告数 204件(前週報告数 242件)と減少した。地区別では、有明、山鹿、八代に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の33件を最多に幅広い年齢層からの報告である。
- ヘルパンギーナは、報告数 195件(前週報告数 266件)と減少した。地区別では、菊池、天草、宇城に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の59件を最多に10～14歳以下からの報告である。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、報告数 53件(前週報告数 56件)とわずかに減少した。地区別では、熊本、菊池、人吉に多く報告がみられる。年齢別では、5歳の9件を最多に主に10～14歳以下から報告されている。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	2		7	37	43	11	2		12		45	9	1	15		1	1	2
山鹿保健所					17		5		2		5		*	*				
菊池保健所			12	7	18	2	2	1	7		47	2		1				
阿蘇保健所				1	1								*	*				1
御船保健所					5						1		*	*				
八代保健所			1	1	23	3		1	2		18							
水俣保健所									4		8		*	*				
人吉保健所	1			4	17	1	1		1		9		*	*				1
有明保健所			1	1	52	1	1		3		6	8		2				1
宇城保健所				1	11				4		18	11						
天草保健所			4	1	17		2		7		38	14						
計	3	0	25	53	204	18	13	2	42	0	195	44	1	18	0	1	4	2

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0～5ヶ月	6～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
インフルエンザ	3		1					1													
小児科定点年齢	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上						
RSウイルス感染症	0																				
咽頭結膜熱	25		1	5	2	3	6	4	1	1			1		1						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	53			2	4	4	5	9	8	6	3	4	7		1						
感染性胃腸炎	204	5	24	33	21	14	14	16	12	12	8	3	27	3	12						
水痘	18			2	1	1	5	3	1		2	3									
手足口病	13		2	3	1	2	1	4													
伝染性紅斑	2				1							1									
突発性発しん	42		24	17	1																
百日咳	0																				
ヘルパンギーナ	195		26	59	53	18	17	7	4	3	2	2	4								
流行性耳下腺炎	44			3	1	2	5	10	7	4	4	3	4		1						
眼科定点年齢区分	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	
急性出血性結膜炎	1																1				
流行性角結膜炎	18				1	1		1	2				1	2		3	7				
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0																				
無菌性髄膜炎	1				1																
マイコプラズマ肺炎	4	1		3																	
クラミジア肺炎	2			2																	

大きな流行が発生  
又は継続しつつある地域

- 感染性胃腸炎：有明、山鹿、八代
- ヘルパンギーナ：菊池、天草、宇城
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎：熊本、菊池、人吉

咽頭結膜熱が増加する季節



咽頭結膜熱は、アデノウイルスが口、鼻、のど、目の結膜等から体内に入り引き起こす感染症です。県内での報告数は、5月頃まではほぼ10～20件程度で推移していましたが、6月以降若干多くなってきています。夏場に報告数が増える傾向がありますので、今後注意が必要です。

咽頭結膜熱は、消毒が不十分なプールを介して子どものあいだに流行することがあるため、「プール熱」と呼ばれることもあります。プールに入らなくても感染することがあります。

(症状)  
5～7日の潜伏期を経て、発熱、のどの痛み、目の充血等の症状が出ます。頭痛、吐き気、腹痛、下痢を伴うこともあります。一般的には3～5日で軽快しますが、この病気を引き起こすアデノウイルスには、たくさんの種類があることが知られており、7型と呼ばれるウイルスの感染では、時に重症化することがあります。症状がみられたら、安静にしておかりつけの医師の診察を受けてください。

(予防)  
流行時には流水と石けんによる手洗い、うがいを励行し、感染者との濃厚な接触を避ける等、感染予防に努めてください。また、プールの利用に際しては、水泳前後にはシャワーを浴び、タオルの共用を避ける等の注意が必要です。熱が下がってもまだ体内にウイルスはいますので、症状がおさまっても2日間は、学校や保育園は休ませましょう。